

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス がじゅまるハウス			
○保護者評価実施期間	令和8年 4月 13日		～	令和8年 4月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 9日		～	令和8年 3月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 13日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所と同じ敷地に放課後児童クラブがあるため異年齢の児童との関わりを持つことができる。集団活動に参加することで社会性を身に付ける。	季節ごとのイベントも放課後等児童クラブと連携し合同で行うことで交流を深めている。 社会性や協調性が身に付くように支援している。	他の放課後児童クラブや児童デイサービスと交流する。
2	・園内は広くスポーツや遊具遊びなど児童に発達に合わせた運動遊びを行うことができる。 また、自然が豊かなので季節の木の実を探す、昆虫やトカゲなど生き物に触れるなど自然と触れ合い五感を刺激することができる。	放課後児童クラブのスタッフとも連携を取り、こども達が主体となって過ごせるように支援をしている。 児童デイサービスで過ごす時間と放課後児童クラブの児童と過ごす時間を分けることで適応能力が身に付くように支援する。	課外活動も増やして、こども達の経験を増やしていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動によっては発達支援室のスペースが足りず児童に対する環境刺激が多くなることもある。	同じスペースで複数の活動をする時に周りからの刺激が多くなる。	各活動に合わせてスペースを区切り刺激が少ない環境をつくる。
2	事業所内での保護者会等の開催ができていない。	保護者会の内容について具体的に検討できていない。 サービス提供日が平日なので保護者の日程等を調整するのが難しい。	他事業所の保護者会への取り組みを参考にし、内容を検討する。 ペアレントトレーニングの研修等を受けれる機会をつくる。 土曜日などに開催できるか検討する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 がじゅまるハウス

公表日 令和8年6月3日

利用児童数 14

回収数 11

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	10			1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11					
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	1				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10			1		
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9			2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	1		1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7			4		
保護 者へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています	9			2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	11					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	2		1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	1		2		
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	1				
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11					
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11					
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11						
非常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	1		4		
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6		1	4		
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7		3	1		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9		1	1		
満 足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	11					
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	11					
	29 事業所の支援に満足していますか。	11					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 がじゅまるハウス

公表日 令和8年 6月 3日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	3		活動によってはスペースが適切でないことがある。別々の活動をする時はスペースを区切る必要がある。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3	配置基準を満たす配置を行っている	送迎等で職員が少ない時間は放課後児童クラブのスタッフと連携し対応していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	3	段差のない構造になっている。	視覚的支援や落ち着ける空間の確保などの特性に応じた環境の配慮が必要。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	2	毎日、清掃を行っている。	痲癩等があった際に刺激が少ない環境をつくる。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	必要に応じて活動できる部屋を提供	落ち着いて活動できる部屋があと一つあった方がいい。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	申し送りの際に振り返りを行っている	目標設定が不十分などところがある。職員全体で目標を共有する。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	年に一回、保護者評価アンケートを実施している。	評価結果を職員全体が把握できるようにする。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		申し送りをを行い、気になる点は業務改善につなげている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4		第三者の来所があった際に事業所の印象や児童の様子などを評価できるように検討する。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	2	こども施設向けICTを活用し研修を受けています。	特性に応じた具体的な対応研修も必要。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	3	職員間で支援プログラムについて話し合い作成しています。ホームページで公表しています。	保護者が確認できるように保護者連絡システムでも公表する。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	2	児童や保護者のニーズに合わせて計画を作成するように心掛けている。	児童の状況や保護者の意向をより適切に反映できるように情報共有を行う。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	2	児童の様子などの情報共有を行い、支援計画を作成しています。	支援に関わる職員間での共通理解を深められるように充実させていく。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	2	申し送りの際に支援の方針などを共有	支援について一貫性が見られていない部分もあるため計画内容を全体で把握できる体制を整えて行く。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	アセスメント記録や支援計画、会議の記録等をまとめたファイルを作成している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		支援の5領域も取り入れて支援計画を作成しています。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	体験型の活動などチームで立案を行っている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	2	児童がやりたいことを中心に活動を行いサポートをしています。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	2	児童が主体性を持って行動できるように支援をしています。	見守りだけにならないように児童のできていること困っていることを読み取れるように観察する。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援開始前に申し送りを行っている。長期休業日に関しては支援中に申し送りの時間を作っている。	長期休業日に関しては支援中に申し送りの時間を作っている。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	5	延長支援等でその日で申し送りができない日が多いので後日に申し送りを行い、情報共有を行っている。	児童が早く帰る日はその日で申し送りを行えるように体制を整える。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	2	個別日誌を作成している。	支援目標に沿って具体的な記録ができるように努めていく。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1	日々の記録を元に児童の様子を話し合い、支援計画を見直している。	

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5	1	児童の主体的な活動（創作活動含む）のサポートを行っている。身辺自立の支援を行っている。	4つの基本活動に関して職員全体で把握できるようにする。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		児童が自分で意思決定できるように選択肢を与えたりなど声掛けの工夫をしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		主に児童発達支援管理者が参加している。 児童の様子について情報収集をしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		担当者会議等があれば参加している。 学校に迎えの際に情報共有を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校に迎えの際に情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		担当者会議等に参加している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		移行対象の児童がいる際は情報共有を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	5		児童発達支援センターからの助言を受ける機会を確保していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	併設している放課後児童クラブの児童と日頃から交流する機会がある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	児童発達支援管理責任者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎の際に保護者と情報共有を行っている。	課題が曖昧な児童もいるので共通理解を深められるように努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5		家族が参加できる研修の機会や情報提供を行っていく必要がある。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		アセスメントで得た情報を元に支援計画を作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		保護者と確認しながら説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	2	送迎時に児童の様子を情報共有するように心掛けている。職員間でも情報共有を行い対応している。	相談しやすい環境づくりと保護者との関わりを強化していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	4	保護者が主催する親の会の開催場所を提供している。	事業所内で保護者会が行えるように検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		契約時に苦情・要望の受付窓口に関して説明を行っている。意見箱を設置している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月、事業所の通信を発行している。 Instagramを活用し、日頃の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報は鍵付きのロッカーで保管している。 写真の掲載等ある場合は同意書をもっている。	定期的に個人情報の取扱いについて職員間で周知を行うようにする。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		児童の特性に合わせて声掛けの工夫を行っている。	職員間で共通認識をもてるように努めていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5	地域の祭りがあった際には事業所の紹介等を行っている。	併設している放課後児童クラブとも連携しイベントに地域住民を招待できるか検討する。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルを作成している。 避難訓練や不審者対応訓練を行っている。	保護者連絡システム等を活用し周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		業務継続計画を作成している。 年に2回避難訓練を行っている。	心肺蘇生等の訓練も年に一回は行えるようようにする。

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		服薬がある児童に関しては保護者と情報共有を行っている。事業所での服薬が必要であれば与薬依頼書を作成し対応している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	保護者と連携を取りながら対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	各訓練を行った際には保護者に周知している。	保護者連絡システム等で安全計画がいつでも確認できるようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	ヒヤリハットの様式を作成している。 申し送りの際にトラブル等があった際の情報共有を行っている。	各スタッフに分かりやすく情報共有できるように努力する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1	年に一回、研修用動画を活用し虐待防止研修を行っている。	新規採用職員も速やかに研修を受けれるように体制を整える。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	年に一回、研修用動画を活用し身体拘束の適正化について研修を行っている。		